

事業報告書（案）

平成29年度
(2017年度)

公益財団法人JAL財団

目 次

● 事業の概要

I. 地球人の育成と国際交流を推進する事業

1. JAL スカラシッププログラム	2
2. 「空の日」中学生主要空港派遣事業	6
3. 地球人講座	7
4. 外国人学生に対する研修プログラム（インターンシップ事業）	8
5. 東日本鉄道文化財団研修生に対する研修プログラム	8

II. 日本文化の紹介等国際理解を推進する事業

1. 世界こどもハイクコンテスト	8
2. ハイク普及活動等への協賛	9

III. 航空文明社会の発展に関する事業

1. 新大気観測	10
----------------	----

● 庶務事項

1. 評議員会・理事会	11
2. 賛助会員	11

● 事業報告の附属明細書

13-14

別添：評議員・理事・監事（平成 30 年 3 月 31 日現在）

賛助会員（平成 30 年 3 月 31 日現在）

●事業の概要

I. 地球人の育成と国際交流を推進する事業

1. JAL スカラシッププログラム

(1) アジア・オセアニア地区大学生対象プログラム

アジア・オセアニアの大学生・大学院生を日本へ招待し、様々な研修や文化交流を通じて日本への理解や国境を越えた相互理解を促進し、将来のアジア・オセアニア地域を担う若者を育成することを目的としたこのプログラムは、昭和 50 年（1975 年）に日本航空によって開始された。平成 2 年（1990 年）に発足した日航財団（現 JAL 財団）が、その運営を引き継ぎ、充実を図りつつこれまでに 1,590 名の海外学生の参加を得るにいたっている。

第 48 回となる今年度プログラムは、26 名の海外大学生・大学院生を招き、環境問題をテーマとして、日本語を使用して開催した。なお、日本人学生 16 名（石川地区 6 名含む）も、海外学生とともに研修やグループワークに臨み、研鑽と交流を深めた。

- ・開催期間：平成 29 年（2017 年）6 月 26 日～7 月 18 日（23 日間）
- ・テーマ：「考えよう！アジアの環境、世界の環境～今、私たちが環境の為にできることを～」
- ・開催地：東京都とその近郊、石川県（金沢市、白山市）
- ・参加者：韓国（ソウル・プサン） / 中国（北京・上海・大連・天津・広州・香港） / 台湾（台北・高雄） / フィリピン / ベトナム（ハノイ・ホーチミン） / ラオス / カンボジア / タイ / マレーシア / シンガポール / インドネシア / ミャンマー / インド / オーストラリアの各国、地域から公募・選抜された大学生・大学院生 26 名
東京・石川地区で公募・選抜された日本人大学生 16 名（東京 10 名、石川 6 名）
- ・協力：アジアフォーラム in 石川実行委員会、（公財）東日本鉄道文化財団、（独法）国際交流基金、（NPO）アイセック・ジャパン東京大学委員会
白山市国際交流協会、白山市俳句協会
- ・後援：国土交通省、外務省、文部科学省、石川県、金沢市、白山市
北國新聞社、（公財）金沢コンベンションビューロー、石川県内 7 大学
（公財）石川県国際交流協会、石川県青年団協議会
- ・協賛：日本航空（株）
- ・開催概要：セミナー・グループワーク・公開発表会
プログラム開始時のセミナーにおいて、国立環境研究所地球環境研究センター大気・海洋モニタリング推進室町田敏暢室長より「地球温暖化と大気中の二酸化炭素（CO₂）」と題するご講演を頂き、二酸化炭素の特徴や、その

濃度が季節変動を繰り返しながらも、経年度変動では産業革命後大幅に増加しており、地球温暖化の要因の一つである可能性があることや、日本航空機に搭載される大気観測装置により採集された上空の大気データを長期間に亘り観測し、地球規模の研究に結びつけている点について学んだ。

また、オープニングセミナーの一環として、コペルニク・ジャパン^{*1}の天花寺宏美代表理事より、「貧困地域に適したテクノロジーとはどのようなものか」、「コペルニク・ジャパンは、なぜ、どのように様々な企業と連携しているのか」をテーマとした講演を頂いた。引き続きスカラーたちは、「情報格差」、「貧富格差」、「農業」、「失業」、「子供女性の教育」等のテーマについて、各グループで課題を設定し、解決策の検討、現実的な施策を議論し、発表するワークショップを行った。学生たちは、その後もグループに分かれてさらにフィールドワークや討論を重ね、「私たちが環境の為にできること」に関する考察結果をレポートにまとめ、プログラム終盤の公開発表会において発表した。

なお、フィールドワークの一環として、アイセック・ジャパン東京大学委員会のご協力のもと、各国の「水」問題についてディスカッションを行い、その結果を発表した。同プログラムの中ではグループに分かれてお台場の日本科学未来館、フジテレビ本社、ソニーエクスプローラサイエンスで各々の見学先を廻るフィールドワークも実施した。

また、東日本鉄道文化財団のご協力のもと、JR 東日本が幕張駅及び、千葉駅ペリエにおいて取り組んでいる緑化運動、太陽光利用促進、風力発電等のエコ活動について学ぶことができた。更に東京駅 TESSEI 社では、社員自らの取り組みにより会社が活性化していったことや、短時間でなされる新幹線清掃車内清掃業務の凄さ、そして清掃作業のみならず社員教育、自ら活性化させるための工夫等を垣間見ることができ、スカラーにとっては、日本の効率的な作業の実態、仕事に就く日本人の心構え等、多くを学ぶことができた。

^{*1)} コペルニクジャパン

途上国の人々の「生活の向上」と「自立」を目指し、革新的なテクノロジーを現地の人々へ届けている一般社団法人。

アジアフォーラム in 石川

プログラム中盤では、石川県を訪ね、同県、金沢市、県内の大学・ボランティア団体等と JAL 財団で組織する実行委員会の主催する「アジアフォーラム in 石川」に参加した。「考えよう！アジアの環境、世界の環境」～今、私たちにできること～石川県・金沢市を事例として」をテーマに、石川県青少年総合研修センターでの研修、市内各地でのフィールドワークに取り組んだ。

金沢講演として、持続可能な社会実現のための課題や世界的な取り組み、地元金沢の環境への対応について、金沢大学の鈴木克徳教授に「世界が合意した 2030 年に指すべき社会 SDGs」、金沢エコライフくらぶの青海万里子代表には「リサイクル-市民発想の環境の取り組み」、そして金沢市環境局環境政策課の蚊戸博樹課長補佐には「古都・金沢市の環境政策」についてそれぞれお話し頂いた。さらに、フィールドワークとして自動車リサイクル業を通じて、循環型社会の創造を目指している会宝産業を訪問し、先進的なリサイクル業務の実情を学んだ。引き続き、ゴミの減量・リサイクルの重要性を確認できる環境研修の場である西部環境エネルギーセンターを見学した。

その上で総合コーディネーターを務めていただいた石川県ユネスコ協会事務局長川畑松晴氏進行のご指導のもと、スカラー及び日本人学生が以下のグループ毎のテーマに沿って研究を行い公開シンポジウムで成果を発表した。

グループ A 用水の役割から見る金沢の街づくり

グループ B 環境汚染

グループ C 観光客の急増とゴミ問題

グループ D 太陽光発電とバイオマスの今と未来

発表後、金沢大学教授 鈴木克徳氏、金沢市環境局環境政策課課長補佐蚊戸博樹氏より全体総括を頂いた。

この他金沢市では、石川国際交流ラウンジを訪問し、浴衣の着付けと茶室での裏千家の茶道などの日本の伝統文化を体験した。その後、能の先生に能の手ほどきを受け、全員で舞って楽しんだ後、地元のボランティアの皆さんの手作りカレーライスを頂きつつ、交流を図った。その後、地元の学生たちの案内により、金沢市内見学を実施した。

また、公開シンポジウム終了後に開催された「国際交流まつり」では、地元の和太鼓チームによる迫力ある演舞のほか、海外学生、日本人学生による民族芸能やパフォーマンスも披露され、地元の皆さんとの親睦、交流が図られた。

白山市プログラム

石川プログラムの中では白山市も訪問した。まず白山比咩神社で、参拝及び夏越大祓の輪くぐりを通じて、プログラム滞在期間中の無事を祈願した。その後、千代女の里俳句館を訪れ、白山市国際交流協会、白山市俳句協会のご協力を得て俳句創作体験を実施。白山市俳句協会の瀬東会長に俳句の作り方をご教示頂き、スカラー達は俳句創作に取り組んだ。最後に様々な題材の感受性豊かな俳句が完成して発表会が行われ、その様子が地元メディアに取

り上げられることとなった。

さらに太鼓の里浅野太鼓文化研究所訪問し練習ののち演奏を体験、次に、一里野温泉に向かい日本式温泉の入浴体験等日本文化体験を行った。その後は石川動物園が環境のために実施しているリサイクル活動等の説明も受けた。

また、今回は初めての取り組みとして、白山市の皆様のご協力により、半日間のホームビジットを行い、スカラーは白山の皆さんと深く交流する共に、白山市ならではの広大な自然、郷土料理に触れることができた。

ホームステイ

日本の家庭生活を体験してもらうことにより、日本人の生活習慣や行動様式への理解を促すことを目的として、東京地区、金沢地区において各々ホームステイを実施した。東京地区では日本航空グループ社員・OB/OGの皆さん、石川地区では公募した地元の皆さんにホストファミリーをお引き受け頂いた。

なお、平成 29 年度に実施または実施の検討を行うとしていた JAL スカラシップ「日韓中学生交流」、「日中中学生交流」事業については、諸般の事情により平成 29 年度中の実施を見送った。

2. 「空の日」中学生主要空港派遣事業

JAL 財団は、「『空の日』・『空の旬間』実行委員会」(*)より委嘱を受け、「空の日」・空の旬間」事業の一つである「空の日」中学生主要空港派遣事業の企画・運営に当たっている。この事業は、次世代を担う中学生に航空や空港に対する理解と関心を深めてもらい、視野の広い若者へと育成することを目的としており、成田国際空港や海外の主要空港、航空機メーカー、運航乗務員養成施設、機内食工場の見学、また、現地学生との交流等を実施している。平成 6 年度(1994 年度)より実施されており、平成 29 年度(2017 年度)までの参加中学生は累計 420 名に達している。

(*)「空の日」・「空の旬間」

我が国の航空は、民間航空が再開した昭和 27 年(1952 年)以来、目覚ましい発展を遂げ、今や国民生活にとって不可欠の交通機関となるとともに、空港は地域発展の核となっている。民間航空再開 40 周年にあたる平成 4 年(1992 年)、より多くの国民に航空に対する理解と関心を深めていただくとの趣旨により、9 月 20 日に「空の日」、9 月 20 日～30 日に「空の旬間」が設けられた。

(*)「空の日」・「空の旬間」実行委員会

国土交通省航空局、本邦航空会社、空港関連企業、航空・空港関連公益法人等で構成され、広く国民一般の空への関心と理解を高め、航空の発展に寄与するために、「空の日」・「空の旬間」事業を実施することを目的としている。

平成 29 年度(2017 年度)事業概要

- ・派遣先：シアトル、フェニックス、ロサンゼルス
- ・日程：平成 29 年 7 月 24 日～7 月 29 日（4 泊 6 日）
- ・参加者：成田空港周辺の中学校生徒 6 名（募集・選考は「実行委員会」が実施）
- ・見学：
 - ①成田空港：管制塔、日本航空格納庫に駐機中の B787 機材等
 - ②シアトル：ボーイング社エバレット工場、カミアックハイスクール（現地生徒と交流実施）、航空博物館
 - ③フェニックス：日本航空フェニックス乗員訓練所
 - ④ロサンゼルス：機内食工場
 - ⑤訪米/帰国時機内：客室乗務員の業務

参加中学生たちは、この研修を通じて、航空産業や空港には様々な仕事があり、その運営が実に多くの人々の努力や連携によって成りたっていること、「空」の安全が機械やシステムだけでなく、そこで働く多くの人々によって支えられていることを学んだ。また、参加した中学生同士や現地学校の生徒との交流や、航空関連の仕事に携わっている人々との交流を通じ、より視野を広めることとなった。なお、研修終了後、参加者の報告や研修中の写真を収録した「研修レポート」を発行し、関係先に配布するとともに JAL 財団ホームページに掲載している。

3. 地球人講座

地球規模で考え行動できる青少年の育成を目的として、第一線で活躍する講師による小中高校生を対象とした「地球人講座」を平成 15 年度(2003 年度)より国内外の各地で開催している。平成 29 年度は第 23、24 回の 2 回を宇宙航空研究開発機構（JAXA）宇宙飛行士の油井亀美也さん、野口聡一さんに、日本国内（島根県松江市）、海外（英国、ロンドン）にてそれぞれご講演いただいた。国内外の小中学生、海外駐在日本人の皆さんを対象に宇宙の魅力や宇宙における国際協力などについて語っていただき、また、幅広い質問に丁寧に答えてくださった。参加された皆さんの心に感動と大いなる学びを与える講座となった。

第 23 回

- ・開催日：平成 29 年（2017 年）8 月 5 日
- ・講師：JAXA 宇宙飛行士 油井亀美也氏
- ・テーマ：「宇宙で気づいた大切なこと」
- ・開催地：島根県 松江市
- ・聴講者等：島根県内の小中学生・保護者 約 330 人
- ・共催：日本航空(株)
- ・協力：（国立研究開発法人）宇宙航空研究開発機構（JAXA）
- ・後援：松江市教育委員会、山陰中央新報社、一畑電気鉄道株式会社、エフエム山陰

第 24 回

- ・開催日：平成 29 年（2017 年）11 月 16 日、17 日
- ・講師：JAXA 宇宙飛行士 野口聡一氏
- ・テーマ：① “「宇宙においてよ」 ～宇宙時代を生きる～」 （日本語講演）
② “Unity and Strength by Embracing Differences” （英語講演）
- ・開催地：英国 ロンドン
- ・聴講者等：① 「ロンドン日本人学校」生徒・教師・保護者 約 290 名
② 「West Acton Primary School」（現地校）生徒・教師 約 370 名
③ 「在英日本商工会議所」会員 約 58 名
- ・共催：日本航空(株)
- ・協力：(国立研究開発法人) 宇宙航空研究開発機構（JAXA）
- ・後援：日本商工会議所

4. 外国人学生に対する研修プログラム（インターンシップ事業）

JAL 財団では、国際交流事業の一環として、海外の大学で日本語や日本文化を学んでいる大学生を研修生として受け入れて、日本での就業機会を提供するインターンシップ事業を実施している。平成 2 年度(1990 年度)に開始し、これまでに累計 37 名の海外学生を受け入れている。

研修生は、JAL 財団スタッフとして日本での仕事を体験し、さらに日本航空グループのボランティア活動へ参加する等により、日本語能力の向上を図りつつ日本文化・社会への理解を深めている。また、JAL スカラシップ大学生交流プログラムの運営に携わることで、海外学生とも積極的に交流を行い、相互理解に努めている。なお、研修中に日本に関するレポートを作成し、終了時に財団内で発表することを課しており、発表終了後、そのレポート（日本語・中国語版）を財団ホームページに掲載して公開している。

平成 29 年度(2017 年度)受け入れ実績

台湾国立政治大学大学生	1 名（平成 29 年 3 月初～8 月末）
北京外国語大学大学生	1 名（平成 30 年 3 月初～8 月末予定）

5. 東日本鉄道文化財団研修生に対する研修プログラム

JAL 財団は、東日本鉄道文化財団と各々の事業運営に相互に協力することとしており、その一環として、毎年、東日本鉄道文化財団がアジア諸国の鉄道会社若手社員を日本へ招いて実施している研修の一部として、主に安全をテーマとした研修内容を提供している。平成 29 年度（2017 年度）は、インドネシア・マレーシア・タイ・ベトナム・モンゴル・ミャンマー・フィリピンから 10 名の研修生を受け入れ、日本航空(株)の主催する航空教室への参加や、同社の安全啓発センター・オペレーションコン

トロールセンター、運航乗務員研修施設の見学などを斡旋した。なお、この研修内容の提供は、平成 19 年度(2007 年度)に開始し、2017 年度までの海外研修生受入人数は 88 名に達している。

Ⅱ. 日本文化の紹介等国際理解を推進する事業

1. 世界こどもハイクコンテスト

昭和 39 年(1964 年)に日本航空がアメリカの音楽番組で呼びかけた「ハイクコンテスト」に始まる海外での俳句普及の取り組みを、平成 2 年(1990 年)の日航財団(現 JAL 財団)設立時より財団が引き継ぎ、日本と世界の 15 歳以下の子供たちを対象とした「世界こどもハイクコンテスト」を二年に一度開催している。このコンテストは、世界の子供たちにハイク創作の楽しさを広め、世界で最も短い「詩」であるハイクを生み出した日本文化や日本への理解と国際交流を促進することを目的として、各国の教育機関、日本航空海外支店などの協力を得て開催している。なお、その作品はハイクと絵で構成することとしており、ハイクを詠むとともにその目の光景や記憶にある情景を自らの手で絵に描きとめてもらうことにより、子供たちのより豊かな感性を引出し、養うこととしている。

平成 29 年度(2017 年度)末までに作品の募集・選考・表彰等を終えた最新の第 15 回コンテストまでに、約 57 の国と地域から約 70 万作品が寄せられているが、毎回、大会を開催した国・地域ごとに大賞、優秀賞を選定し、大賞作品を集めて現地語に日本語・英語の訳を付して絵本「地球歳時記」に編集している。JAL 財団は、その一定部数を出版社より買い取り、国内の主な公立図書館や海外の関係機関に寄贈している。

なお、国内外の俳句大会等に協賛を行うにあたり、それらの大会会場において「地球歳時記」や優秀作品のバナーの展示を行い、世界こどもハイクコンテストの存在や各国の子供たちのハイク創作の実情の紹介に努めている。

※これまでの参加国・地域

アルメニア、オーストラリア、オーストリア、バングラディシュ、ブータン、ブラジル、ブルガリア、カナダ、カンボジア、中国(含む香港)、クロアチア、デンマーク、エクアドル、エジプト、エストニア、フィンランド、フランス(含むフィジー)、ドイツ、ギリシア、インド、インドネシア、アイルランド、イタリア、ケニア、韓国、ラトビア、リトアニア、マレーシア、メキシコ、モンゴル、モロッコ、ネパール、オランダ、ニュージーランド、ノルウェー、パラオ、フィリピン、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、ロシア、セネガル、シンガポール、スロベニア、スペイン、スウェーデン、スイス、スリランカ、台湾、タイ、トルコ、ウクライナ、アラブ首長国連邦、イギリス、アメリカ(含むハワイ・グアム)、ベトナム、日本

「第 15 回世界こどもハイクコンテスト」の実施

開催期間：日本大会 平成 29 年(2017 年)夏から平成 30 年(2018 年)冬

世界大会 平成 29 年(2017 年)冬から平成 30 年(2018 年)春

テーマ：「いきもの」

協力：国際俳句交流協会、ぺんてる(株)、(株)学研プラス

協賛 : 日本航空(株)

後援 : 外務省、文化庁、(独法)国際交流基金、(公財)日本ユニセフ協会

今大会は、44 の国・地域で開催し、25,084 作品の応募があった。日本大会には、6,153 作品(前回は 4,658 作品)の応募があり、海外日本人学校・補習校から 4,215 作品(前回は 3,556 作品)と多くの作品が寄せられた(国内応募は 1,938 作品で前回の 1,102 作品より増加)。なお、在日各国公館をはじめ海外の学校・団体等から参加問い合わせが多数あり、新たにブータン、ブルガリア、エクアドル、ノルウェー、ポーランド、スリランカで大会を開催することが出来た。また、全受賞作品は J A L 財団の WEB に掲載し、さらに大賞作品を集めて平成 30 年(2018 年)11 月に「地球歳時記 第 15 巻『いきものうた』」として編集する。

2. その他のハイク普及活動、ハイク関連事業への協賛

・米国でのハイク普及活動

①シカゴの現地小学校でハイクセミナー開催(共催: J A L シカゴ支店)

②ボストンの日本協会でハイクセミナー開催(共催: J A L ボストン支店)

・第 20 回 松山 「俳句甲子園」への協賛

平成 9 年(1997 年)以来、毎年 8 月に愛媛県松山市で開催される「俳句甲子園」(全国高校俳句選手権)に協賛し、賞品を提供している。

・第22回 「草枕」 国際俳句大会(熊本)への協賛

平成 8 年(1996 年)に夏目漱石来熊 100 年記念事業として創設された「草枕」国際俳句大会に協賛し、ジュニア部門において「J A L 財団賞」を提供している。

・第6回日露俳句コンテスト(秋田・ウラジオストク)への協賛

日露文化交流の一環として秋田市とウラジオストク市で開催されている「日露俳句コンテスト」に協賛し、「J A L 財団賞」を提供している。

・その他

①アルメニア文化週間への協賛(主催: 駐日アルメニア共和国大使館主催)

②リトアニア Sugihara Week への協賛(リトアニア カウナスにて。主催: 杉原千畝氏の人道行為に感銘をうけた政治、経済、学術など様々な各界に属する団体等で構成された組織)

③エストニア祭への協賛(姉妹都市、長野県佐久市にて。主催: 佐久市役所)

④パリ国立自然博物館でのハイク教室への協賛(主催: J A L パリ支店)

各イベントにおいて、優秀作品のパナー展示、作品絵葉書の配布等を実施。

Ⅲ. 航空文明社会の発展に関する事業

1. 新大気観測

民間航空機に上空の温室効果ガスを測定する装置を搭載して観測を行い、温室効果ガスの空間分布を明らかにし、研究成果の公表や観測データを国内外の研究者に提供する

ことにより、地球温暖化メカニズムの解明に資することを目的とする事業である。また、研究成果や観測データの公開や取り組み内容の公表を通じて、地球環境に対する国民的関心の向上を図ることも目的としている。

この事業は、国立環境研究所、気象庁気象研究所、(株)ジャムコ、(株)日本航空と共同で実施している調査・研究事業であり、観測装置の開発、温室効果ガスの観測・研究・成果の公表を国立環境研究所、観測データの品質評価を気象庁気象研究所、観測装置の搭載に係わる航空機改修とそれに関わる当局の承認取得を日本航空、観測装置の整備と運用性の確認をジャムコ、「航空機による地球環境観測推進委員会」の事務局業務とプロジェクト一般の広報活動を JAL 財団が主に担って推進している。

観測データは国内外に広く開示されており、それに基づく研究成果については、この事業に参加する研究者に留まらず国内外の多くの研究者により論文にまとめられ、また、学会等で発表されている。なお、この事業は、平成 5 年（1993 年）の開始からすでに 24 年を経ているが、このように長期にわたる継続的な航空機による大気観測の取り組みは世界に類がなく、その研究成果とともに国内外から高く評価されている。

2017 年 12 月には、CONTRAIL プロジェクトが、地球温暖化防止活動環境大臣表彰の「国際貢献部門」を受賞した。これは、これまでの取り組みとその成果が、社会より認められ、高い評価を受けたことによる。

・航空機による地球環境観測推進委員会

産官学の有識者から事業への助言を得るための会議体であり、事務局を JAL 財団が務めている。平成 28 年度より第 3 期の 5 年にわたる取り組みが始まったが、その第二回会議を平成 30 年(2018 年)3 月 9 日に開催し、各分野の委員から有益な助言を得た。

・観測実績

◎大気サンプリング装置

自動大気サンプリング装置（ASE）及び手動大気サンプリング装置（MSE）を使用した大気採取による CO₂、CO、CH₄、N₂O、H₂、SF₆、各同位体の濃度測定。

測定回数総計 305 回

CY05	1 回	CY06	20 回	CY07	18 回	CY08	23 回
CY09	25 回	CY10	20 回	CY11	21 回	CY12	31 回
CY13	35 回	CY14	30 回	CY15	34 回	CY16	24 回
CY17	23 回						

◎二酸化炭素自動連続測定装置

CO₂ 濃度連続測定装置（CME）を使用した CO₂ の濃度測定。

測定回数総計 18,769 回

CY05	59 回	CY06	707 回	CY07	1,547 回	CY08	1,069 回
CY09	1,260 回	CY10	1,145 回	CY11	1,275 回	CY12	1,372 回
CY13	1,744 回	CY14	1,885 回	CY15	2,464 回	CY16	2,327 回
CY17	1,915 回						

注. ASE=Automatic Air Sampling Equipment、MSE=Manual Air Sampling Equipment、CME=Continuous CO₂ Measuring Equipment

● 庶務事項

1. 評議員会・理事会

- ・ 第 63 回理事会（書面表決） 平成 29 年（2017 年）5 月 17 日（水）
 - ① 平成 28 年度事業報告及び附属明細書について審議承認された。
 - ② 平成 28 年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）、附属明細書及び財産目録について審議承認された。
 - ③ 定時評議員会招集について審議承認された。
- ・ 第 52 回評議員会 平成 29 年（2017 年）6 月 13 日（火）
 - ① 平成 28 年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）、附属明細書及び財産目録について審議承認された。
 - ② 平成 28 年度事業報告が行われた。
- ・ 第 64 回理事会 平成 29 年 6 月 13 日（火）
 - ① 業務執行報告が常務理事より行われた。
- ・ 第 65 回理事会 平成 30 年（2018 年）3 月 16 日（金）
 - ① 平成 30 年度事業計画及び収支予算について審議承認された。
 - ② 業務執行報告が常務理事より行われた。

2. 賛助会員

47 社 [平成 29 年度（2017 年度）末現在]

以 上

● 事業報告の附属明細書

平成 29 年度事業報告には、定款第 9 条及び「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

評議員・理事・監事

(平成 30 年 3 月 31 日現在)

役職名	氏 名	所 属
評議員	青木 周司	東北大学大学院理学研究科教授
評議員	稲川 廣幸	株式会社 J A L U X 特別顧問
評議員	大川 順子	日本航空株式会社代表取締役専務執行役員
評議員	下村 満子	ジャーナリスト、一般財団法人東京顕微鏡院特別顧問
評議員	原口 幸	株式会社ジェイアール東日本企画 代表取締役社長
評議員	松平 恒忠	一般社団法人日本英語交流連盟名誉会長
代表理事	大西 賢	日本航空株式会社取締役会長、(理事長)
理事	小川 利紘	東京大学名誉教授
理事	早水 研	公益財団法人日本ユニセフ協会専務理事
理事	壬生 基博	森アーツセンター副理事長
理事	宮下 恵美子	国際俳句交流協会評議員
理事	田中 順二	常勤 (常務理事)
監事	田口 久雄	日本航空株式会社常勤監査役
監事	徳永 信	宗和税理士法人代表社員

【別添】

賛 助 会 員 Members

(平成 30 年 3 月 31 日現在 as of 2018.3.31)

アクサ生命保険株式会社	株式会社JALスカイ大阪
株式会社アクセス国際ネットワーク	株式会社JALスカイ金沢
株式会社梓設計	株式会社JALスカイ九州
株式会社エージェンシー	株式会社JALスカイ札幌
株式会社オーエフシー	株式会社 JALUX
岡三証券株式会社	株式会社JALナビア
大阪空港交通株式会社	株式会社JALファシリティーズ
JALスカイエアポート沖縄株式会社	株式会社JALブランドコミュニケーション
沖縄給油施設株式会社	株式会社JALマイレージバンク
空港施設株式会社	株式会社JALメンテナンスサービス
三愛石油株式会社	株式会社ジャルカード
株式会社ジャムコ	株式会社ジャルパック
株式会社JALインフォテック	株式会社ジャルセールス
株式会社JALエービーシー	ジャルロイヤルケータリング株式会社
株式会社JALエアテック	大和証券株式会社
株式会社JALエンジニアリング	日航関西エアカーゴ・システム株式会社
株式会社JALカーゴサービス	日本エアコミューター株式会社
株式会社JALカーゴサービス九州	日本空港ビルデング株式会社
株式会社JALグランドサービス	日本航空株式会社
株式会社JALグランドサービス大阪	日本トランスオーシャン航空株式会社
株式会社JALグランドサービス九州	野村證券株式会社
株式会社JALグランドサービス札幌	株式会社びゅうトラベルサービス
株式会社JALサンライト	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券株式会社
株式会社JALスカイ	

合計 47 社